

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0171000607		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームえべつ 2Fユニット		
所在地	〒067-0013 北海道江別市3条1丁目5番		
自己評価作成日	平成28年1月2日	評価結果市町村受理日	平成28年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovosyoCd=0171000607-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成28年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“入居者様の人格を尊重した質の高い介護と、高い倫理観に基いた介護育成”を掲げ、全職員が心を一つにして取り組んでいます。(具体的には外部研修参加や当ホーム委員会発信の勉強会の充実を図ることでの介護のスキルアップ、常に自己を振り返る事で自己研鑽や心身のコントロールを図り、明るい気持ちで心地よい職場環境を作り上げる事です。)そして、より温かく気の行き届いたホームを目指しています。また、ハード面に於いては、スプリンクラーの設備もあり、より安心できる生活の提供が図れています。今後も、自身のホームのみならず近隣の施設とも連携を図り、介護職全体の質の向上と介護職人口の増加に貢献できるよう、研修の受け入れも継続していきます。地域のために貢献してきた高齢者の方々に『ここで暮らせて良かったなあ』と思って頂ける様なグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目につく場所にあり、個々に意識している。 接遇委員会を設置し、理念に基づいた介護サービスを心掛けた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホーム行事の夏祭り、避難訓練、運営推進会議等に地域、ご家族様にも参加して頂ける様お知らせさせていただいた。また、地域の防災訓練、お祭り、資源回収等に参加させていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別に相談を受けた、傾聴・アドバイスを行なった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には順次職員が参加し、様子をお伝えしている。会議の中で入居者様や家族様の評価とアドバイスを頂き、実際の介護に生かしていけるよう意見を報告書の形で職員全員に周知している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政連絡事項はメール配信にて迅速に対応して頂いており、メールの活用でより身近に感じる場面は多々ある。また、地域包括の職員さんには運営推進会議にはいつも参加していただき、座談含めた交流や協力関係の場を大切にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は一般の家庭同様、夜間のみとしている。また、接遇委員会、安全教育委員会の活動をはじめとしてスピーチロックにも十分に意識を高め（都度、適切か否かを話し合ったりし）ケアにあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルの内容の周知・徹底を図ると共に、風通しの良い職場環境で協力体制を発揮できるよう取り組んでいる。 虐待防止研修に職員有志の参加があり、報告書の提出で周知出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に職員有志の積極的参加があり、報告書提出で周知している。成年後見制度を利用する入居者様が居る事で、学ぶ機会が増えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一語一句をわかりやすくご説明し、時には例を提示しながらご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望やご意見は、都度対応させて頂くと共に、ご意見箱を設置し、運営推進会にても発言が活発に行えるよう図っている。要望等には出来る限り迅速に取り組み改善が図れるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議に順次職員が参加し、意見等発信している。また、個人面談を実施しより良い職場環境の構築に努めている。月に1回のユニット会議、年3回、1・2階合同会議はフラットな意見交換の場となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修の設定、参加の促し、実践者研修参加の奨励、関係書籍の購入など前向きな対応としている。給与面においても昇給は明記されており、勤続年数や資格取得に反映される形態となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人評価のシステムが確立されている(リーダー評価他)が、外部研修は職員個人の積極的参加の意思を大切に、時間の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実践者研修やリーダー研修への参加奨励を毎年行っている。近隣には同業施設があり合同研修の設定にも前向きな理解を頂いている。また市内グループホーム管理者の集い、入居者様交流会、認知症講演会等で職員の交流を持つことが出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の事前面談においてニーズの把握には特に留意している。(若かりし頃の生活状況や嗜好の情報を家族様をお願いする等)また、本人様への初回面談時は、話しやすい、溶け込みやすい雰囲気大切に出来るよう配慮し行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望、不安等、聞き落としのないよう留意し伺っているが、ホームでは対応が困難なことはその理由もお話し、ホームで出来る事を相互ですり合わせ理解いただきながら、協力し合い入居者様のケアに生かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様に生活シートの記入をお願いし、ニーズの見極めに活用させていただいている。医療保険や自立支援の観点からのサービス利用を提案させていただいた利用者様もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機かけや食器拭き、洗濯物たみ、ダンボールたたみなど、生活の随所において快と感じて取り組んでいただける活動を見出し共に行っている。時に相談にのってもらい(昔はどうやって行っていたか尋ねるなど)意見を拝聴している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な方には外出や外泊を奨励し、行事やお誕生会への参加のお声かけ、遠方におられる家族様との電話での交流等で、常に家族様を感じながら生活が送れるよう配慮している。面会や電話時は近況をお伝えし、時に、生活暦からくる助言をいただき、協力し合い入居者様のケアに活かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問面会は、いつでも受け入れられる雰囲気作りに努めている。面会時、近況をお伝えし、ゆったりと過ごして頂ける様に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の食卓テーブルで過ごす方が多く、職員があいだに座り、お茶会や歌・体操などのレクを提供することで、みんなで過ごす時間を設けている。孤立してしまいがちな方にも輪に入ってもらえるよう、自尊心にも配慮し職員が架け橋になれるような対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りで契約終了となった後、お手紙でホームの近況を知らせ、ホーム行事へのお誘いをした。契約終了後のご家族様は、ご自宅で収穫されたアスパラ、とうきびを持って訪れて下さった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動記録や生活歴、申し送りの際の情報提供や都度のカンファレンスの開催、月一回の会議において全職員の見解を共有・検討し、些細なことでも理に合った支援で満足頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はセンター方式のアセスメントシートの記載を家族様に依頼し、関係機関との連携にて情報の収集を行っている。(本人様より伺うこともあり)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの意思の尊重を重視しながら、入居者様の“出来る事探し”のアンテナを職員間で共有している。日々変化する心身状況の把握にも職員間の情報共有を大切に、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、計画作成者が主体となり、本人様の意向、家族様の意向、医療関係者などからのそれぞれの見解と、ユニット会議においての職員間の情報共有をも取りまとめ、介護計画へ反映されるよう図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、カンファレンスシート、連絡ノートを活用し情報共有し模索、実践することでアセスメントや評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が同行できない時の他科受診対応は、その都度管理者が同行し送迎も含めて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回ほど傾聴ボランティアさんの来設があり、昔話に毎回花が咲いている。リハビリを兼ねたマッサージサービスを希望される方には、利用できるように他業種への繋ぎをさせていただいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	的確な状態把握を意とし、家族様対応の受診に際しては、資料提供(バイタル表等)を行っている。訪問診療利用者であっても、ひとつのクリニックで抱え込むことがないよう、専門多科との連携も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日はおおあさクリニックのナースラウンドがあり、体調管理が万全となっている。異変時、対応へのアドバイスを頂く事で適切な臨時受診などへつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室(各病院の相談窓口)とは電話や直接訪ねることで協力体制で関わる事は基より、関係機関のおおさクリニックのソーシャルワーカーの尽力も得られスムーズな連携が図られている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医療職のいない当ホームとしての対応可能な範囲を明示しつつ、状況に応じてリビングウィルを都度、確認し対応としている。また重度化に関わる対応の指針に関しては、すべての入居者家族様に説明を終えている。職員間でもお看取りの対応について意思統一を図った。(1年間で3人のお看取りをしている)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や設置、救命講習の受講やホーム職員で開催する実技研修などで、緊急対応時の手順が習得できるよう整えている。また都度、対応手順に関しての確認も個別に、または、申し送り時に行い、あわせて、実践へ結びつこう図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、消防局職員からの指導を受け災害時等の対応、避難場所、緊急時職員連絡網の活用等を周知している。地域のみなさん及び近隣施設へ、危険の無い範囲で発生時における入居者様のお世話等の協力を依頼している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの個性に応じて心に添う言葉かけを使い分けし、ケアにあたっている。虐待防止を意として言葉への検証も委員会開催時、検討事項としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝えて頂けるように傾聴や表情等で思いの読み取りを大切にしている。決定に迷われる時は選択しやすいよう状況を整えて対応し、押し付けや“～だろう”とはならないよう本人本位に留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	眠気の強い時には臥床を優先したり、お元気な時にはできるだけ活動性を高めるようなコミュニケーションを図っている。その都度それぞれの体調に合わせながらの対応を心掛けている。落ち着いてのんびり過ごせる環境雰囲気作りを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の要望も取り入れながら、その人その人に合った身嗜みやおしゃれができるように努めている。訪問理美容を隔月で依頼しており、希望に応じ提供している。行事等での化粧等も対応させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好物を伺いメニュー作りに協力いただき反映させている。主に職員が調理を担当しているが、可能な時に調理作業を危険のない範囲で参加していただいている。食器洗い、茶碗拭きや後片付けなどは積極的に手伝ってくれる方がいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食量の調節等で適切カロリーを摂取できるよう考慮している。食事水分摂取量は全て記録し把握している。噛む力を大切にしながらも、必要に応じて刻み等、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず行っている。自身で行える方もさりげなく見守り、清潔を確認している。歯ブラシではきれいに出来ない方には口腔ケアスポンジ、口腔ウエットにてケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンや間隔をつかむ事で、一人ひとりに合ったタイミングで声掛けや誘導を行えるように配慮している。夜間帯は、自室でのポータブルトイレ使用を支援している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いてトータル的な排便コントロールを行っている。極力自然排便できるよう、野菜や水分をたくさん摂取できるよう食事提供を工夫し、日中は離床を心がけ、少しでも体を動かしてもらえるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本3日置きの入浴の設定だが、体調変化や要望に合わせて、都度調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡休息は個人に合わせて声掛けし、ソファ等を利用する方もいる。ゆったりとした気持ちで夜を過ごせるよう、寝具、寝間着等は常に清潔を保ち、安眠に繋がれるようにしている。夕食後より20:30までは2名体制の職員配置とし、落ち着かない方には寄り添えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理、介助には細心の注意を払い、職員間の連携で、最低4度の確認後、服薬して頂ける様に支援している。日々の異変を副作用の有無と照らし合わせて思考していけるよう、誤薬防止や薬への知識向上に努めている。(薬包にはお名前の他、薬名記載可能な薬局をセレクト)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	談話、歌、踊り、偏らないTV番組の提供等で、退屈さやマンネリさを感じさせないように努力している。また壁飾りの作成、洗濯物たたみ作業、食器拭き等、役割を持って頂ける様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の野菜収穫、洗濯干し、ご近所散歩など、外出支援に努めた。 外出企画にご家族様の参加を頂き、入居者様ご家族様、職員も一緒に楽しむことが出来た。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との買い物外出をお勧めする企画で、賛同してくださった数名の方が買い物外食することが出来た。ご家族様の都合の合わない方には職員が付添、マンツーマンでの買い物外出も実施した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、子機を自室にお持ちして通話していただいている。手紙を希望される方はおらず、対応する事は無い。また、遠方に家族様がおられる方には折に触れ、電話を促す声掛けをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らして頂ける様、それぞれに合った環境作り(室温、採光)に留意している。また、毎日の清掃で室内の清潔を保ち、共有スペースにも季節を取り入れた装飾を定期的に施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル周辺やTVを設置したソファ周辺、庭の花や外を眺める事ができる窓辺の空間など、その時々々の気分に応じて、または気分転換が図れるそれぞれの場で、時に一人で、時に気のあった方との隣り合わせなど、寛いでいただけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良いと感じてもらえる様、入居者本人やご家族様と相談し、居室内で過ごされる時も不安にならないように、馴染みの家具や思い出の写真などを飾ることで、穏やかに過ごしてもらえる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面においての施設環境を都度検証し対応した。個々の居室内も検討を重ね、本人様の意向と安全動作に整合するよう創意工夫している。 トイレ位置、個人居室を知らせる張り紙、洗面台に個人ごとの棚の設置等で、自立生活が送れるように工夫をした。		